

## 授業科目 聴覚障害 III 演習

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	言語
山口 富一、吉岡 豊		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
○	◎	○	○	○	
【概要・一般目標：G10】 言語聴覚士として必要な聴覚障害関係の機器測定や評価・コミュニケーション手段について習得する。					
【行動目標：SB0】 1. 補聴器に関する専門用語や特性表を説明できる。 2. 補聴器の調整器についてその特性を同定する。 3. 聴覚機能検査の結果をもとに補聴器装用耳を考える。 4. 聴力の型に合わせて補聴器を調整できる。 5. 耳型採取について理解する。 6. 補聴器装用効果について説明できる。 7. 補聴器障害について理解する。 8. 人工内耳の構造とマッピングについて説明できる。 9. 盲ろう二重障害児・者の特徴と援助方法について理解する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	補聴器に関する用語等を理解し、特性表を読み取る。			1	吉岡（講義と演習）
2	補聴器の調整器と出力変化について理解する。			2	吉岡（講義と演習）
3	補聴器のボリューム、音質調整、出力制限、イヤホン、ダンパーを変えて測定する。			2	吉岡（講義と演習）
4	聴覚機能検査結果から補聴器装用と特性を決定する。			3	吉岡（講義と演習）
5	聴力の型に合わせて補聴器の出力を調整する。			4	吉岡（講義と演習）
6	耳型採取の実際を見る。			5	吉岡（講義と演習）
7	補聴器装用効果の測定について説明できる。			6	吉岡（講義と演習）
8	補聴器障害について理解する			7	吉岡（講義と演習）
8	人工内耳の構造と機能を理解する。			4	山口（講義と演習）
10	人工内耳の術前評価をする。			8	山口（講義と演習）
11	人工内耳のマッピング。			8	山口（講義と演習）
12	人工内耳の装用効果の評価（成人）する。			8	山口（講義と演習）
13	人工内耳の装用効果の評価（小児）する。			8	山口（講義と演習）
14	盲ろう二重障害児・者の特徴			9	吉岡（講義と演習）
15	盲ろう二重障害児・者への援助方法			9	吉岡（講義と演習）
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		聴覚障害 I 基礎編（改訂版）、II 臨床編（改訂版）	山田弘幸、佐場野優一 編	建帛社	2007・2,500円＋税
参考書		改訂第2版 補聴器フィッティングの考え方 アドバンスシリーズ・コミュニケーション障害の臨床7 聴覚障害	小寺一興 日本聴能言語士協会 講習会実行委員会	診断と治療社 共同医書出版社	2006・3,200円＋税 4,000円＋税・ ISBN4-7639-3027-3
その他の資料		必要に応じてプリント配布			
【評価方法】 演習なので4/5以上の出席を単位取得の前提とする。レポート提出50%、定期試験50%で評価する。			【履修上の留意点】		